

## 私と車

車は、十分な加速、安定した足回り、シャープなハンドリングが命である。

最初に乗った車は、大学2年の冬、4年落ち中古のカリーナ2ドアハードトップであった。本当は、スカGジャパンかセリカかコスモに乗りたかったが、これらは中古市場でも値段が高く、予算が足りなかった。

当時、カリーナはセリカ、コロナの兄弟車で、中身が一緒にボディが違うだけであった。そのため、得な買い物をしたともいえた。ご丁寧に、中古で売り出すときに真っ赤に塗り替えられていた車なので、当時の丸四つ目カリーナの美しい流線が深紅に映えるスタイリッシュな車であった（ついでに言えば、赤のカリーナというのは滅多にいなかったの、当時岡山の街ではとても目立った）。なお「真っ赤なカッコいい車」をもっている、残念ながら、女の子にもてた、という経験はない。

この車は、「べた踏み」をすれば、並の車には負けることのないだけの十分な加速はあったが（「べた踏み」で最大加速が得られるように電装をチューンしていた）、安定した足回り、シャープなハンドリングについては問題があり、その走りから、友人らから「ジェットコースター」の称号をいただいた車である。

とにかく目的なくひたすら走る、というドライブを結構した。岡山に住んでいたから、吉備路、東備方面、国道30号から児島線が主なテリトリーであった。当時山陽道はなかったから、京阪神や広島に行くには相当な時間を要した。ただし、ウインタースポーツはやらない人なので、雪道はほとんど経験がない。

当時、「よろしくメカドック」というアニメがはやっており、車はチューンアップして乗るもの、と言うのが私の仲間内では常識であった。しかし、チューンにはお金がいる。学生身分では、プラグ（電装）とタイヤの交換（アルミホイールまでは手が出なかった）が精一杯であった。それでもこの車は実によく走った。FR車であったためドリフトも容易であり、しばしば頻用した。電子制御ではなかったので、エンジンもアクセルワークによく対応してくれた。最初にこの車に巡り会えて、車の「しつけ方」というものも覚えることができた。そういう意味ではよく「しつけ」に応じてくれた車である。このように走りを楽しむのが日頃の趣味の一つであったが、在学中に突然親が倒れたため、学業継続に奔走し、車どころではない生活に突入してしまったのが残念であった。

2台目は結婚するときに嫁様もってきたカローラIIライムであり、これは煮ても焼いても食えない車であった。タイヤは替えたが、ちょっと上り坂になると、いくらアクセルを踏んでもスピードは出なかった。当時、レクリエーションビークルがはやりだした頃であり、子どもが生まれてから、新古車の軽の箱バンに買い換えた（普通車を買う経済的余裕はなかった）。この車は高速ではまともに走らないが、背の高い分視界がよく、またトラックベースの車だったので、ハンドルワークがとても楽であった。その後、普通車の4WDワンボックスに乗ったり（4WDは、ワンボックスでも、さすがに山道は安定して速く走ったので、この時代は峠乗りを楽しめた）、普通の軽に乗ったり、カローラ、そしてカローラスパシオに乗った。その頃になると、エンジンの性能がよくなり、カローラやスパシオでも、許せる程度の十分な加速、それなりにシャープなハンドリング（背の高い車に「安定した足回り」を期待することは無理である）はあって、十分に走った。

本格的なRV車以外の車は、トラックベースの軽のバンを含めだいたい乗ったが、それはそれなりにおもしろい。ただ、やはり背の高い車、上り坂でへたるパワーのない車は、高速走行には適していないように思われる。ことにスパシオ時代は、瀬戸大橋を渡ることが結構あったが、高所恐怖症の私は、風でハンドルをがんがん取られるのがとても怖かった。

子どもも大きくなり、ファミリーカーの必要性がなくなったのと、仕事の関係で高速走行が多いので、足回りがよく風にも強い、少しスポーティーな車に乗りたくなった。現在乗っている車は、4年前に買った赤のセリカ（6速MT）である。奇しくも、雌伏25年、昔の「あこがれ」を果たした形になった。一世風靡のリフトバック（ハッチバック）は健在である。

FF車であること、また、車長が4m20cmしかないのにセルシオ並みの回転半径があるという取り回しの悪さはあるが、十分な加速、安定した足回り、シャープなハンドリングの全てを満たしている。これで価格はエスティマやカムリよりだいぶ安かった。

6気筒のエンジンでは体験できない4気筒エンジン独特の吸い付けられるような加速感、道路にびたっと貼り付くような安定性(車高も低いので)、なにより190PSのエンジンには十分な余力があり、当然コンピュータ制御であるがアクセルワークもよく考えられており、エンジンも1.8lなのでMTということも加え燃費がよいのはうれしいことである。街乗りに向く車とはいえないが(はっきりいって、向かない。街乗りは、ハンドリングがシャープで、60km/hぐらいまできびきびと加速ができるエンジンを積んだコンパクトカーがおもしろい)、私は街乗りをすることがほとんどなく、高速走行が多いので、今の車はライフスタイルに適している。

もう13万km走行しているが、割と丁寧に乗っているので、幸い大きな故障なく(クラッチがいかれてロードサービスを呼んだことはある)ここまで来ている。しかし、セリカは製造中止になってしまった。今乗っているセリカが最後のセリカである。できるだけ乗り続けたいが、走行距離もかなり行ったので、次は何に乗ろうか(故障対応のことを考えるので、基本的に国産車です)、ガソリンも高いのでいっそコンパクトカーにしようか、などと悩んでいる。(了)

(坂出市医師会雑誌に寄稿 2008年)